

科学技術イノベーション官民投資拡大推進費 ターゲット領域検討委員会 第4回会合(概要)

1. 日時 平成29年4月4日(火) 15:00~17:00

2. 場所 中央合同庁舎8号館6階623会議室

3. 出席者

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 久間 和生  | 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員         |
| 原山 優子  | 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員         |
| 上山 隆大  | 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員         |
| 橋本 和仁  | 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員         |
| 小谷 元子  | 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員         |
| 江村 克己  | 日本電気株式会社取締役執行役員常務兼CTO         |
| 須藤 亮   | 産業競争力懇談会実行委員長／株式会社東芝技術シニアフェロー |
| 永野 恵嗣  | 株式会社スリー・ディー・マトリックス取締役会長       |
| 西尾 章治郎 | 国立大学法人大阪大学総長                  |
| 松尾 清一  | 国立大学法人名古屋大学総長                 |

4. 配付資料

資料4-1 エビデンスに基づく政策立案の推進に向けて -ターゲット領域の検討材料の提供(試行)-  
資料4-2 ターゲット領域検討に向けた全体俯瞰図  
資料4-3 ターゲット領域採点整理表

5. 議題

- (1) エビデンスに基づく政策立案の推進に向けて
- (2) ターゲット領域の選定に向けた議論

6. 議事概要

- (1) 冒頭、委員会の開催に当たり、石原宏高 内閣府副大臣及び久間会長より挨拶。
- (2) 事務局より、資料4-1について説明。同説明に対する委員からの主な意見は以下のとおり。
  - ・論文と特許で用いている分類表現を統一させると検討結果がより分かりやすくなる。
  - ・特許は事業化との関係性が高く、本分析結果は領域を設定するうえでの良い手法になり得る。
- (3) 事務局より、資料4-2、4-3について説明。
- (4) 資料4-2、4-3に基づき、ターゲット領域の選定について議論。委員からの主な意見は以下のとおり。
  - ・Society5.0という視点から、「①サイバー」は重要、加えてサイバーとフィジカルとの融合も重要であり、それをつなぐ基盤技術として「②デバイス技術」も重要である。
  - ・その観点から、サイバーとフィジカルをつなぐ入口であるセンサとともに、出口であるロボットに係る共通的な技術(例:アクチュエータ等)も重要であり、「②デバイス技術」に含めるべき。
  - ・「③データベース構築」は、今後伸びる領域を育てるためにも重要。関係省庁がそれぞれの分野で整備しているデータベースをつないでいくことが現実的。実施者(取りまとめ者)を決めて行うことが必要。
  - ・「①サイバー」に含まれている《ネットワーク》は「④サイバーセキュリティ」と一緒の領域にした方が親和性も高く、「④プラットフォーム」という領域を作ってはどうか。
  - ・「⑧介護・くらし支援技術」は非常に重要。身体的にハンディキャップのある方への支援にも応用が可能である。各省庁の連携をさらに進めてほしい。
  - ・「⑩建設/インフラ維持管理」と「⑪防災・減災技術」も親和性が高いので、統合して一つの領域として進めてはどうか。
  - ・「⑬食料生産流通」、「⑭バイオ」は今後伸びていく分野であり重要。応用分野が広く、今後整理が必要。
  - ・「⑦蓄エネルギー」と「⑧省エネルギー」は両分野ともに、単独では狭く、各省庁の施策も限定的であることから、統合した方がいいのではないかと
- (5) 久間会長より、事務局に対し、本日の議論を踏まえ、ターゲット領域の選定案を作成し、次回会合に提示するよう指示。

以上